

研究・調査報告書

報告書番号	担当
4 1 4	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門
題名 (原題/訳)	
Positive and negative affect and risk of coronary heart disease: Whitehall II prospective cohort study. 正の影響、負の影響と、冠動脈疾患の危険について : Whitehall II 前向きコホート研究より	
執筆者	
Nabi H, Kivimaki M, De Vogli R, Marmot MG, Singh-Manoux A; Whitehall II Prospective Cohort Study.	
掲載誌 (番号又は発行年月日)	
BMJ. 2008 Jun 30;337:a118. doi: 10.1136/bmj.a118.	
キーワード	
正の影響、負の影響、冠動脈疾患、コホート研究	
要 旨	
<p>目的 : すでに確立した危険因子とは独立した正の影響、負の影響と続発する冠動脈疾患発症との関連を調べること。</p> <p>計画 : 12年間追跡した前向きコホート研究。</p> <p>場所 : ロンドンにある 20 の市民サービス課で。</p> <p>参加者 : 1985 年に Whitehall II 研究に参加した 35-55 歳の 10,308 人の公務員</p> <p>主な結果として測定したもの : 致死性の冠動脈疾患、臨床上で立証された非致死性の心筋梗塞、確かな狭心症 (n=619、平均追跡期間 12.5 年)</p> <p>結果 : 年齢、性別、民族、社会経済的立場を調整した Cox 回帰式では正の影響(ハザード比=1.01、95%信頼区間 : 0.82-1.24)と影響バランス点として参照した正の影響・負の影響のバランス(ハザード比=0.89、95%信頼区間 : 0.73-1.09) は冠動脈疾患と関連していなかった。行動関連の危険因子(喫煙、飲酒、毎日の果物や野菜の摂取、運動、BMI)、生物学的な危険因子(高血圧、高コレステロール血症、糖尿病)、仕事時の肉体的ストレスをさらに調整したが結果は変わらなかった。しかし負の影響の大きなところから 3 番目の参加者では冠動脈疾患の発症が増加しており(ハザード比=1.32、1.09-1.60)、多くの交絡を調整してもこの関連は変わらず残っていた。</p> <p>結論 : 正の影響と影響バランスは研究への参加段階で冠動脈疾患と診断されていない男女では将来の冠動脈疾患を予測できていないようであった。負の影響と冠動脈疾患との間に弱い正の関係が見つかり、将来の研究で確定される必要がある。</p>	